

建設産業委員会会議録

平成 26 年 5 月 8 日 (木)

開会 午後 1 時 30 分

○小出義一委員長

ただいまから建設産業委員会を開会します。協議題 1 閉会中の調査事項について、を議題とします。本日、中間報告の報告者について、及び J R 半田駅前の街並みづくりの今後について、の 2 点ご意見いただきたいと思ひます。

まず 1 点目中間報告についてですが、4 月 10 日の委員会で、既に臨時会での委員会報告は副委員長が行うということを決めてあります。当初は結果をまとめるに至らなかった経緯に対して反省すべき事柄が多々あり、この決定を良としていましたが、改めて反省すべき点を明らかにし、謝罪した上で報告させていただきたいと思ひます。

反省すべき点は以下の通りと考えています。

委員全員が一つの方向を示しているにも関わらず、理解できずに会議を遅らせる結果となったこと。

2 点目として意地を張り素直に意見を取り入れることができず、委員会の取り回しをすることができず、長の役割を果たせなかったこととあります。

深く反省し謝罪いたしたいと思ひます。申し訳ありませんでした。

【委員長起立して謝罪】

○小出義一委員長

委員のみなさんには前回の決定を覆すことになりませんが、ぜひとも再度ご審議いただきますようお願いいたします。よろしくようお願いいたします。

何かありましたらお願いいたします。

○中川健一委員

よくわからないですけども、前回、副委員長がやることと決定していたと思ひます。それに意見をいただくとおられても、決定したことですのでは何がやりたいのかよくわかりません。わざわざ建設産業委員会まで開いて。

○小出義一委員長

申し上げましたように、結論を出せなかったことに対する謝罪の意味を込めて、副委員長に報告してもらうことを良としていましたが、何がいけなかったのかを明らかにせず、そういう対応をするだけでは委員長として責任不十分であると感じましたので、どこがいけなかったのかをみなさんに申しあげ、その点をご理解いただいた上で委員長が報告をさせていただきたいと考えました。

○中川健一委員

よくわかりませんが、前回で副委員長がやることは公的に決定したことです。謝罪するのはいいです。少なくとも私は委員長の運営がおかしかったと思ひているので、それを謝っていただけるのであれば、今後の改善につながるかもしれませんので、結構なことだと思ひます。それは良しとして、自分が委員長報告をやりたいというのはよくわからないですが、なんでそういう話になったのでしょうか。

○小出義一委員長

何がいけなかったのかをみなさんにご理解していただいた上で、原因をはっきり申し上げ謝罪した上で、委員長の責任を果たすことをめざそうと考えた訳です。

○中川健一委員

委員長として委員会報告の中で謝罪を議会にしたいということですか。

○小出義一委員長

委員長として最後の仕事、委員会の報告をしたいということですか。

○中川健一委員

委員会の報告を議場でただしゃべりたいということですか。

○小出義一委員長

そこまですることが委員長の仕事であって、それを、責任を取る形で副委員長に委ねるとするのは、違うのかなと考えました。

○中川健一委員

意味はわかりませんが、前回多数決で決まったことですので、なぜそれを蒸し返すのかが理解が全くできません。もしも、やらなければならないと思うのであれば、あの場で言うべきですね。こんなに時間が経って、こんなことで僕達呼び集められて、前回決まったことです。

○小出義一委員長

他にありませんか。

【発言するものなし】

○小出義一委員長

前回決定したことを改めて審査していただくということで大変恐縮ですが、委員会報告をぜひとも務めさせていただきたいと思っております。賛成していただける議員は挙手をお願いいたします。

【発言するものあり】

○小出義一委員長

失礼しました。以上で持って賛否を諮りたいと思いますが、ご異議ありませんか。

【発言するものなし】

○小出義一委員長

ご異議なしと認めます。よって只今より採決を行いたいと思います。委員会報告を委員長がすることに賛成の委員の挙手をお願いします。

【「発言するものあり」】

○小出義一委員長

暫く休憩します。

休憩 午後 2 時 24 分

再開 午後 2 時 50 分

○小出義一委員長

休憩をとき、委員会を再開します。委員会報告の報告者について委員のみなさんからご意

見をお伺いしたいと思います。

○中川健一委員

さっき一応みんなが挙手をしたじゃないですか。あの時手を挙げた人が2人いて、4人が手を挙げなかった訳ですが、それはどうなりますか。

○小出義一委員長

採決の宣告が無かったご指摘をうけまして、やり直しして、少し休憩をとってくれということでしたので、採決に至らなかったと判断しています。

○中川健一委員

僕の見間違えでなければ、あれは手を挙げた人と手を挙げなかった人がちゃんといたと思います。

○小出義一委員長

審議不十分という意見がありましたので、もう一度諮りなおそうとした段階で休憩を要求されたと考えています。

○中川健一委員

さっきの表決は無し、ということですか。

○小出義一委員長

そう思っています。採決の前に異議がありました。諮らずに挙手を求めたものですからやり直しが必要だと判断したということです。その時点で休憩をとってくれとなった風に理解しています。

【発言するものあり】

○小出義一委員長

暫く休憩します。

休憩 午後2時53分

再開 午後2時55分

○小出義一委員長

再開します。

○鈴木好美委員

もう一度委員長報告をしたいという思いを短めに。委員長報告に至るまでにいろんな形でいろんな方が動き、ここの建設委員会以外の方も動いで委員長報告をしたいという形になった訳ですから。

○小出義一委員長

前回の決定についてはそれなりの解釈をしていましたが、反省すべき点があったことを形に表す一つの方法でもあったと思いますが、そういう個人的な思いを本会議の場に持っていくよりは、反省すべき点をみなさんに聞いていただいて、それを形に表す。みなさんに理解した上で委員長としての役割を果たすのが、本来の姿だとおもった次第です。反省すべき点とは先ほど皆さんに申し上げた、委員のみなさんの理解を十分にできずに、会議を遅らせる結果になったり、意見を取り入れずに取り回しがうまくできなかった点にあると思っています。

○鈴木好美委員

本当はもっと違った意味で言ってほしかったのですが、今休憩で委員のみんなと話して、このままではいけないだろうとなりました。委員会報告を委員長がするのか、副委員長がするのか、なくすのか、ということになりましたが、みんなの思いで、今できている原稿に、委員長のできなかった部分、様々な問題点を書き、進めていこうかというところまで詰めてきました。

でも委員長の思いがみんなのところに伝わらないというのは原稿読みのような捉え方で考えているからそういう風になってしまうと思います。何遍も言ってきた。本来なら連休に入る前にやる、いろんな形で委員長に報告をしてもらいたいと、いろんな方が動いて気持ちが変わり、反省し、それは十分こっちも理解した。でもあえて話すところということがやりたいと原稿が届いた。これだって、自分が反省すべき問題点を書いてある訳では無く、これを進めれば無難に終わるような考え方しかないような原稿だった。

ということはみんなの思いが委員長の中には伝わってないし、他の人が手を加えてくれたのに、ただ今まで委員会報告は委員長がやるというのを、副委員長がやるのは、やはりよくないのではないかといろんな人が動いて、気持ちが変わったという部分。本来ならばもう少し、自ら委員のみんなに頭を下げてでもぜひやりたいという思いがあれば一番良かった。その後委員会で思いを言ってくれるのが一番良かった。

だから実際あったことを話すと、この原稿だけでなく、わざわざこうやってやりなさい、というペーパーをもらって、それだって棒読みでしょう。そんな長い文句はみんなが期待していない。だから委員長がどういう気持ちか聞いたのだけれども、そんな長い文句はいらなかった。

○小出義一委員長

結論がだせなかったことについては大変申し訳なかったと思っています。それが反省すべき点です。その点を踏まえてぜひ最後の仕事をやらせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○鈴木好美委員

本当はそんな長い話ではなく、ぜひみなさん委員長報告をやらせてくださいの一言で良かった。今のそんな話は聞きたくない、という少し語弊がありますが。それでみんなに諮っていただいて原稿をもう少し、委員長のできなかった部分を付け足して、委員長報告として。

○新美保博委員

しゃべればしゃべるほど言葉尻と揚足をとられる発言をするから、だんだん違う方向に進んでしまう。結果が出せなかった責任。だったら責任取れよと。委員長報告をすることが責任ではない。だからここに一つフレーズが足りない。それを考えて。てっきり休憩して戻ってきたときにそのことを言ってくれると思った。そのフレーズを考えてみて。なぜ委員だけで話し合いをしてきたか、考えてみて。あなたはここで何をしていたのか。そしたら言葉ででてくるだろう。

○小出義一委員長

みなさんにお世話をかけ大変申し訳なかったと思います。すいませんでした。

○新美保博委員

ちょっと意味合いは違うんだけど、こんなことを何回も繰り返しても時間ももったいないし、嫌になってくる。15日に委員会報告という時間が決まっている以上長いことやっけていしょうがない。先ほど鈴木君が言ったように、委員会として一つの結論を出します。副委員長でこのまま報告をする、というのが一つ。結果が出せなかった、提言が出せなかったとして報告するのを止める、というのが一つ。この間まで作り上げたものに委員長として、委員会としてもあるが、申し訳ないけれどもこのような結果を招いてしまったこと、言い出せばきりがながとり回しの悪さ、早合点、フライングなどの反省を込めた報告にしないと、ただ結果が出せませんでした、では綺麗ごとになってしまうので、手を加えた反省文を付け加えて報告書を作りあげ、委員長として報告をするという3つしかないと思う。選ぶことは委員長が選んでもらえればいいと思います。というところで思っていますが、他の委員の人たちにも聞いてもらって、それから進めてもらえればいいと思います。でないといつまでたっても終わらない話になってきています。

○沢田清委員

今、新美委員の言われた3点を諮っていただいてその結果で進めていきましょう。

○中川健一委員

3点といっても実際は前回の副委員長が報告するということは決まっていますので、けれども、反省文を冒頭か最後に小出さんがつけるのであれば、委員長として委員会報告をしゃべることは、反対まではどうだろう、という意見がありますので、小出さんがそれでよければ、そういう議論をしたらどうかな、と思います。その他のことはこれ以上ここで話し合っていていしょうがないので。

○榊原伸行委員

今の新美委員の言われた3点のうち、私も委員長が承諾していただいて、反省文を入れていただけるのであればそれで行きたいと思います。

○鈴木好美委員

3点目の反省文を入れていただけるのであれば、結構でございますのでよろしくお願いいたします。

○岩田玲子副委員長

3点目の委員長の反省文が入ったもので進めるのがいいと思います。

○沢田清委員

委員長本人がそういう報告であろうとなんだろうと、私がしなければいかんと、こういう気持ちがかきたかただけだということは分かってもらったと思うし、分かってもらわなければいけない。私どもにも絶対責任はあると思いながら話しています。ずれてきて、どこに迷惑がかかっているのか。一番議員がやってはいけないことだということを落としておかないと、半田市の建設産業委員会はこちら1つしかないですよ。市民に迷惑がかかったということを委員長報告で話ができれば委員長がすべきでないかなと思います。以上です。

○小出義一委員長

せっかく取り組んだテーマですので、先に進んでいくようにして参りたいと思っています。

反省すべき点を加えてぜひとも委員長報告をさせていただきたいと思っています。よろしくお願いたします。

○新美保博委員

3点のうち何をやろうかといって、きっと3番目になろうかと思うので、実務に入りましょう。今日文言もつくって、当局も悪いけどお付き合いいただいて。それよりも何が大事かという今からどうするかが一番大事だから、こんなことで時間かけたくない訳です。部長も予定があるので。

○小出義一委員長

よろしいですか。委員長報告については少し中断させていただいて、2点目の今後の建設産業委員会の取り組み方についてご意見をいただきたいと思います。

○新美保博委員

その資料をコピーして来て。なぜこの人に渡っていて、この人には渡っていない資料があるの。おかしいと思わないのか。

○小出義一委員長

言い訳になりますが事情がありまして。

【発言するものあり】

○新美保博委員

話は変わりますけれどもJR半田駅前の街並みづくりの今後についてこの文言の数行はなんら問題ないと思います。これで行きたいと思います。ここには何ら具体性がひとつもない。これを俗にいう絵に描いた餅。当初言ったよね、今年の建設産業委員会は絵に描いた餅ではなくて、なんらかの実が採れるようなことがしたいなど。今の結論がこれです。最悪のポイントは引き続き建設産業委員になってもらいたい、これは誰の希望。この2番は当然のことだからよくわからん。会派内の同意が必要、余計なお世話。次年度への申し送り、これも受けた方が困るでしょう。4番、ここが一番気になるところ。地元住民から継続した取り組みに関する要望書の提出がある。要望書を付けてください。見たこともない。まず要望書を出して。委員長がこれ書いたんでしょ。向こうが何を言っているのか。

○小出義一委員長

議会として次年度に申し送りをするようなことになった時に必要があればお願いをしたいというものです。申し送りをするのが無ければ、この件についても扱いが微妙になるなと思っています。

○新美保博委員

そんなことは聞いていない。要望書を出して。

○小出義一委員長

今のところは必要ありません。

○新美保博委員

なんで書くんた。

○小出義一委員長

必要があればと思いました。議会の意思は伝えることができますが、地元がどのように考

えているかを伝える手段として必要があればそういうことも要望書としてまとめていただくことも可能かと思いました。

○中川健一委員

ここに要望書の提出があると、これは間違いですね。

○小出義一委員長

これはメモだと思ってくださいね。

○中川健一委員

日本語の問題でポイントがあるならあるで、ないならないで、提出をお願いしなければならないと書いてくれればわかるけど。

○小出義一委員長

考え方としてこういうこともあり得るかと考えて書いたポイントです。今後についてまとめる必要があると思いましたのでこの時間を設けてもらいましたが、委員会として、今後の考え方をまとめる必要があるかどうかについてまずお諮りしたいと思いますがいかがでしょうか。

○中川健一委員

私はもう委員会報告の内容も決まっていますので、その後一週間でメンバーも変わりますので今更やる意味は全く無いと思います。

○新美保博委員

ポイントのところでメモが書いてあるにしても、こういったことをペーパーで出すということ、ペーパーでもらった人がいる状況といない状況で、これはメモだから消しますよという話には相ならん訳。これも公文書になる。これに責任を持ってもらわなければならない。これが本当の委員長としてのポイントなんだ。時間がかかって悪いけれども、地元の説明会をやるときに、出してはいけないペーパーを了解をとらずに出したよね。その時にさんざん言われたでしょ。決めてもない、合意もとっていないものをなぜペーパーで出すのか。補助金 500 万円という数字を載せて、要望書すらないのに提出があると書くなんて、いまだにそれなんです。結論が出せなかった委員会である以上、改選でメンバーが変わったから知らないよ、では済まされないとします。地元に対して、市民に対して何らかの結論を出さなければならないと思います。ただ、小出委員長のもとでは進めない方がいい。未だにこんな、嘘を書く。無いのに要望書があるという。あと 1 週間で改選にも関わらず建設産業委員会の次の委員の人たちに申し送って、今年結論が出せませんので、来年結論を出してくださいなんてことを書いてしまう委員長のもとでは今後は進めない方がいい。道を誤ると思います。私個人としては小出委員長のもとではこの問題には触りたくない。以上。

○小出義一委員長

他にいかがですか。

【「発言するものなし」】

○小出義一委員長

まずまとめる必要があるかないかについてお聞きしたいと思います。よろしく願いいたします。

○沢田清委員

今のままでは終わりどころか全然中途半端ですよ。ですからそれを聞くことがおかしいなと思っているところもあります。今の状況での委員長としての意見かもしれませんが、新美委員が言われたように、次の行動をすぐにとらなきゃいけない状況である訳だし、市民側はもうその状況で待っている訳ですよ。8月に何とかしなければならない、どんどん進めなければならない。これはメモ書きかもしれないですが、こんな内容を書くのであれば、こういう要望書があったほうがいいのかというニュアンスにしておかないと、とんでもない話になる。そこら辺の采配もちょっとおかしいかなと思います。やはり次のことは考えていかなければならないと思うけれど、今はわかりません。

○榊原伸行委員

今、新美委員と沢田委員のいわれた通りだと思うのですが、委員長なりに、おそらく私の考えですと、カクサンさんと今後のことについて話し合いはしたと思います。その辺がわかれば正直にここに書いてもらえればいいんです。わたしはそう思いますのでそれがあればお聞きしたい。

○小出義一委員長

継続してやらなければならない。またメンバーが同じであるかどうかという点では確約はできないけれども、継続したメンバーで審議をしていきたいと思いましたが、委員会の中の、議会の中の話ですからそういったことはみなさんをお願いしていきたいと思いましたが、それを後押しする意味で地元の要望の提出ができるかどうかは少し触れて話をしました。

もちろん継続して審議してほしいし、地元としても要望することを文書として出すつもり気持ちはあると言ってみえました。そのことだけお伝えします。私の気持ちとしては来年もできる限り同じ方がこの課題についてもう一度取り組んでいただけるようお願いしたいと思っております。

○沢田清委員

その場においてご自分が委員長としてやりたい気持ちがあるのか、ないのか。

○小出義一委員長

結果が一番重要ですので、結果が出せる体制をとるには、その見極めができる方に委員長になっていただいてひっばっていただくことが望ましいと思います。私も及ばずながら委員として加わって一緒に汗をかいていきたいという気持ちはあります。

○沢田清委員

委員長は互選ですよ。ですから当然そういう話になるでしょうし、今回の建設産業委員会は半田市議会の中でも特別な、みなさんそういう頭でおられると思うし、26年度は必ずしなければならないという思いは全員ある訳です。そういう中で、言われなくても委員の皆さんが考えている訳で、今こうして言っている訳です。

○新美保博委員

この問題を一緒に考えていくうえで一番大事なところは、やはり行政がどこまでバックアップできるかというところで、やっとな本題に入る訳だけれども。基本的に言うところでは別としても地元と行政と議会が一緒になってJR半田駅前がどのような街にできるか

というところが、作り上げていくことができるかどうか。当初言っていたようにジオラマのようなものが作りたかったが作れなかった。26年度にそれができるかどうか。作れるような協議会を立ち上げたいと思う訳。そのことについてどのようにしたらいいのか。そんなことは知らないよと、そのあたりの部長の見解をお伺いしたい。でないといくら議会がやれやれと言っても始まらないし、地元が言っても始まらない。3者が一体にならないとはじまらないという思いがありますので、ぜひ部長の思いをお聞きしたい。

○榊原康仁市民経済部長

私は最初保博委員が言われた市民と議会と行政でみんなが話し合っってJR半田駅前のジオラマを作って、それを施策として進めていくことを提言する、これをやりたかった。今ここにきていますので、今までの委員会は市民の中に入っていったことはあまりないですよ。今回は素晴らしい取り組みだと思います。市民の人たちも建設産業委員会に期待してきている。そこに応えなければならぬと思います。このまま尻切れトンボではやはりいけないと思います。これから今言われた通り、ハードだけでなくソフトも含めて平成26年度に市民のみなさんと議会と行政それぞれの担当課が協力をしてなんらかのまちづくりの話し合いの場や協議会をつくって、そういったジオラマをつくるという方向でぜひとも協力したいという思いです。

○新美保博委員

この思いは少なくとも委員はその通りだと思っている。じゃあ具体的に何をやっていくんだということになってくると、これを建設産業委員会でやるのか、特別委員会でやるのか、協議会を立ち上げてやるのか、任意の団体でやるのか、ということについては自ずと知れたことではないか。任意の団体、有志の会ではおそらく無理だろう。出にくくもなってくるだろうし。選択肢としては建設産業委員会でやるのか、特別委員会を設けてやるのかこれしかないと思う。形は一週間後の役選で方を決めればいいのかとあって、思いは今の部長の言葉で言えばよしやるぞということになるかならないかだけ。だからここに書いてある委員会がどうのこうのというのはどちらでもいいんだ。こんなことは後の話。先に方法論が出てくるからおかしな話。何に向かっていくんだというのが決まれば後は方法。会をどこでやるかという話はいつでもできる。次にみんなが仮に思い思いの委員会に行ったとしても特別委員会で集まればいい。特別委員会で違うテーマがあれば、任意の協議会をつくるぞということもやれると思う。そういう意味で目的をしっかりとある意味いい勉強を1年した訳だから26年度は先ほど市民経済部長が言ったように最後はジオラマまで作るぞと。お手製でいいから。お手製で絵も描いたわけだから。そのぐらいの気持ちでみんなが進めるかどうか。それをぜひ委員のみんなにお聞きしたい。そのことを聞いて一週間後の役選に臨みたい。そうするとどこへ行った方がいいのかということも決められる。例えば特別委員会を作るときに手が挙げられる。ぜひともこれをやりたいと提言も提案もできる。みんなの思いを申し訳ないが語っていただけるとありがたい。

○小出義一委員長

それでは発言をお願いします。

○中川健一委員

私はカクサンさんが一年ごとに変わっていく、役所も人材が変わっていくことが長期的な観点で街づくりをやりにくいということを当初からおっしゃっていて、その通りだと思っていました。当然この一年結果が出せなかったわけで同じようなテーマでやらないといけないと思っています。特別委員会だと名前が変わって、外観も変わってしまいますのでできれば建設産業委員会でもう1回やる方がいいと思います。いずれにしても建設産業委員会です手を挙げて、万が一特別委員会ですできれば手を挙げなければならないと思っています。

○榊原伸行委員

今日会派でも少し話しました。建設産業委員会です清委員と私はこのまま継続したいということをお申し入れまして、承認をいただきました。それともう一つ、特別委員会がもしこのテーマで設立されれば、特別委員会に私と清委員が所属したいことも伝え、ほぼ認められたという形でございます。

○鈴木好美委員

私もさっき言ったように建設産業委員会でもう一度やるということは会派でもお伝えしました。先ほど言われたように最後までやっていかないといけない部分、今まで委員が現場に入るといふことも、今回初めてやったことすし、何とか立ち上げていきたいと思ひます。

○岩田玲子副委員長

建設産業委員会ですやるにしても、特別委員会ですやるにしても、このどちらかですやらなければならないと思ひます。やらなければならないこととは街づくりを形にすることでありまして、その目的であればどちらが向かいやすいのか、それにより建設産業委員会か特別委員会かをみなさんで議論して、やれるほうで実行に向かつてやるのがベターだと感じています。

○小出義一委員長

新美委員からは先ほどお聞きしましたので、私からも少し、沢田委員の質問で答えさせていただいた部分もありますが、来年も建設産業委員会に残ってこのテーマで参加したいと思ひます。ぜひとも結論がでるまでしっかり地元とお付き合いをしていきたいと思ひます。

○新美保博委員

正直言えば建設産業委員会ですやるべきことではない気がします。これは1年かけてやることではない気がします。短期間でスピードを持ってやったほうがいいと思ひます。特別委員会で集中的にやったほうがいいと思ひます。建設産業委員会は、今はそれ以上にやらなければならないことがたくさんあるような気がします。だからと言って放り投げるわけではない。スピード感を持って動きやすい特別委員会の方がいいのかなと感じています。まだ一週間ありますので少し考えますし、どうしても建設ということであれば考えますけれども、できれば特別委員会の方がいいのかなと考えています。

○小出義一委員長

ありがとうございます。それではどうまとめるというよりも、みなさん委員会に関連するもの、特別なのか、常任なのか少し定かではございませんが、この火は消していかないとすることを強く思ひて見えることを確認できましたので、この議題についてはこの程度としておきたいですがよろしいでしょうか。

【「はい」と呼ぶ声あり】

○小出義一委員長

それでは結果が出ますようによろしくお願いいたします。

暫く休憩します。

休憩 午後3時45分

再開 午後3時51分

○小出義一委員長

委員会を再開いたします。一旦保留しました委員会報告の文面ですが、委員長としての反省の気持ちを込めて修正するという点で修正をどのようにするかという点についてまとめていきたいと思っております。委員長がここをこうしたいと申し上げるのが筋かなと思いき、休憩の間にどのあたりをと見ておりました。具体的には出ていませんが、3ページ目の下段に少し、触れているところがありますので、このところを付け足せばと思います。それを地元の人々の思いの中でどういう風に進めていくべきで、そこに迷惑をかけているという文面にしたいと考えておるところです。ご意見がありましたらお願いします。

○中川健一委員

小出委員長の案がありましたらお聞かせください。

○小出義一委員長

私もまだまとまっていません。

地元から期待が高まっている中でそれにこたえるまでに至っていない点について迷惑をかけているという点にスポットをあて、反省を伝えていきたいと自分では思っています。

暫く休憩します。

休憩 午後3時56分

再開 午後4時23分

○小出義一委員長

委員会を再開します。

○新美保博委員

この文言ができたと思います。この委員長報告はこれでいいのか委員長にお聞きしたい。お願いだから委員がこういう風に決めたので私は読んでいと言わないように。言われたくもないし。本来ならこんな文言恥ずべきこと、本来あってはならないことをやっているのが、委員がこうしろと言ったからこういう文言にして私が委員長報告をするなんて気持ちを持たれたのでは、何の為にこの時間を使って委員長報告を委員長にやると決めたのか意味が分からない。その意味を委員長から語っていただきたい。

○小出義一委員長

引用した文章も私が書いたものですし、私の意思でもあります。私も全く異存はありません。この委員会のメとしての文言としてこれで委員会報告にしたいと思っております。

【発言するものあり】

○小出義一委員長

冒頭に投げられましたように副委員長がすればいいということでは何が問題であったか

を明確にすることもなく終わってしまうということもありました。そのことも申し上げて、反省すべき点を知っていただいた上で協議をしていただいた内容ですので、この内容をもって委員長として報告をしていきたいと思えます。よろしいでしょうか。

【「異議なし」と発言するものあり】

○新美保博委員

くれぐれも委員がこの文言を載せろと言って載せるわけではない。形の上では条件になっているかもしれないね。委員長報告をするにはこの文言がないと、委員長報告をさせないよということを言っているのだから条件になっているのかもしれないが、委員がこういう文言をつけろと言っているからでなく、はっきりと反省すると言っても、委員長から反省すべき点と言われていないから誰も理解をしていないよ。ただこの時間を円満に収める為に今、どうしたらいいかという点で落ち着いた場所だし、委員にさせられたという思いではなく、自分がそう思っていると、書いた文言が一緒だからとかではなくて、こういった文言になったということ。冗談めいて言っているけれども、昭和12年、77年の半田市議会の歴史の中で初めてこういう委員長報告の文言を書かれるわけだから、不名誉なことだと思わなければならない。それくらいのことを感じてもらわなければならない。

○小出義一委員長

そう思っております。

○新美保博委員

いつもそうやって言葉をだすが、感じているなら感じている言葉があるはずだし、力まかせに委員が圧力をかけたのかもしれない、そうとるかもしれないけれども最後の一言は手直ししていただいて、委員長報告をさせていただいてありがとうございますと僕は思います。それくらいの気持ちがあって初めてこれがいきっていくのかなと思います。言ってほしいとは言わないがそれくらいの気持ちが欲しい。そういうものが伝わらないから最初の反省の言葉にみんなが胸をうたれることもなく、手が挙がらなかった。25年度の建設産業委員会はそのからはじまったということ、歳の上の人に言うのも失礼かもしれないけれども、肝に銘じてやってもらわないと仲間にはなれないなと思います。

最後に、過ぎたるかもしれませんが、これも経験の一つですから、やはり学ばなければ、次はこういうことがないように。各委員もそれぞれ私自身が偉そうなことをいっても明日は我が身ですので、一緒にどこかでお会いしたら一緒にやっていきましょう。

○小出義一委員長

貴重なお時間をいただいて、本来ならもう少しできておったものだったと思います。私の至らない点が災いしてこのような結果になっておりますが、また引き続きこのテーマでみなさんと一緒に街づくりに関わっていききたい、そんな思いから、最後の〆もやりたいと思っております。そういった気持ちで対処していきたいと思えますのでよろしくお願いいたします。

長時間ご審議していただき、お付き合いしていただいたこと心から感謝しております。ありがとうございます。

これで委員会を閉会します。

閉会 午後4時30分